～ 登校するのが楽しいと思える学校を目指して ～

学校だより

令和8年8月26日(水) 発行
第 3 号
札幌市立白石中学校
発行責任者 木原 英俊

当たり前への感謝と　人との関りを大切に

校長　木原英俊

約１か月間にわたる夏休みが明け、いよいよ２学期がスタートしました。改修を終え、明るく綺麗にリニューアルされた体育館で全校生徒が一堂に会し、元気な笑顔とともに始業式を行えたことを大変嬉しく思っています。不便さを経験したからこそ、これまで当たり前のように過ごしていた環境のありがたさを、改めて感じる機会となりました。改修工事はもう少し続きますが、この不便さから学ぶ経験も、今だからこそ得られる貴重な機会と捉えています。

また、今年の夏は、北海道は比較的過ごしやすかったものの、全国的には記録的な猛暑に加え、地震や豪雨による大きな被害が報じられました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災地の一日も早い復旧を心より願うばかりです。だからこそ、こうして大きな事故もなく無事に新学期を迎えられたのも、決して「当たり前」ではありません。多くの支えと幸運の賜物であることに、改めて深く感謝したいと思います。

さらに、夏休み中の地域との関わりに目を向けますと、萬蔵祭などの地域行事に笑顔で参加している生徒たちの姿や、近隣施設での演奏を通して地域の皆様に元気と感動を届けてくれた吹奏楽部の姿も印象に残っています。本校の生徒が、いかに地域の方々の温かい眼差しと支えの中で育まれているかを、感じることができました。

さて、２学期は１年間で最も充実した学期といわれますが、体育大会や文化祭といった大きな全校行事があることも、その理由の一つです。北ガスアリーナでの体育大会や、本校の伝統である合唱コンクールを中心とした文化祭は、仲間と共に取り組む時間が長く、関係性を深めていける貴重な機会です。時には意見の食い違いや不安・葛藤が生じることもあるかもしれません。しかし、本気で取り組むからこそ生まれる葛藤が、人と関わることでしか得られない「成長の証」につながっています。どれほど親しい友人であっても、何もかもが自分と同じという人はいないはずです。人と深く関わり、違いに直面したときこそ、相手の想いを理解しようと努め、互いの着地点を見つけようとする「他者尊重の学び」が生まれます。

行事はもちろんですが、日々の学校生活においても「人と関わり、互いを尊重する」意識を積み重ねていくこと。この小さな積み重ねが、生徒の人としての成長につながっていくと信じています。日常の当たり前に感謝し、周囲とのつながりを大切にしながら、実り多き２学期となるよう、教職員一同努めてまいります。保護者・地域の皆様におかれましては、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。